

# 最高のレースのため より速く走る馬を!!

2010.12.13訪問



## 青年部員の 事業所に行つた 聞いてきました 第三十二回 アグリさん

いよいよ最後の事業所。現在青年部でもっともニューフェイスな中島俊房さんが勤務されている株式会社アグリさんです。



㈱アグリは、平成20年創業。現在の田城寺の厩舎に移転して7ヶ月になります。中島さんは以前、3年程名古屋競馬の厩務員をしていましたが、この頃から既に独立を考えてみました。



**お仕事の内容**  
主には北海道から来て、初めて馬装する馬のしつけと、内臓・骨折・足元に治療が必要な馬の休養と回復です。実は中島さん自身が馬主でもあり、どっぴり馬と生活しています。

(文・清水輝)

## 「ホノシロ」について教えてください

うれしいと思うことは何ですか？

当所で育成をした競走馬がレースで勝ったり、思っていた以上の成績を収めたときです。あと、中央競馬の馬も育成しているので、笠松競馬出身の安藤勝己兄弟と交流もあり、うれしく仕事をしています。  
ツライことは？

相手は生きものなので、一年365日24時間対応しなければならぬので、なかなか休むことができません。この子達(中島さんは馬のことを人間のお子さんのように話します)が病気や怪我をしたら、と思うと、予定が全く立てられません。(笑)

## 「生と死」について

馬の平均寿命は25年位ですが、その中で競走馬として活躍できるのは3年〜5年位です。種馬としての余生がなければ、引退や怪我など用済み(悪い言葉ですが)になると、雑に扱われたり、殺処分されます。人間の勝手・残酷さをひしひしと感じます。

## 聞いてなっとク ココだけの話

馬は見るだけで何かが分かる生きものなんですか？

馬に限らず動物は問診することができないので、馬を知るためには「見る」以外に方法はありません。毛艶や筋肉の付き方、馬体重の変化を見て、馬券を買うのと同じです。

病気や怪我がある馬は、見ればすぐに症状が分かります。無理をすれば、すぐその馬は潰れてしまうので、育成の仕事というものが必要になってくるわけです。「獣医」はまだ別の仕事です。「育成」は、より速く走れるように治すための競走馬ならではの仕事です。

## 今後について・・・

皆さんもご存じのとおり、笠松競馬をはじめ地方競馬は非常に厳しい環境にあります。そもそも景気に左右されやすい業種で、先が分かりません。当所は、笠松競馬全体の2割の馬を受け持っています。笠松競馬に少しでも手助けできるように、また笠松町に元気を与えることができるように日々がんばっていきます。